

氏名	松下浩志
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 4917 号
学位授与の日付	平成 26 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	Assessment of health-related quality of life predicts the outcome of pegylated interferon and ribavirin therapy for chronic hepatitis C (C型慢性肝炎に対するインターフェロン・リバビリン併用療法の治療効果予測因子としての健康関連QOLの検討)
--------	--

論文審査委員	教授 山田 雅夫 教授 八木 孝仁 准教授 池田 正徳
--------	-----------------------------

学位論文内容の要旨

C型肝炎ウイルスの慢性感染は、健康関連 QOL (health-related quality of life: HRQOL) を損なうとされている。本研究では、C型慢性肝炎 (chronic hepatitis C: CHC) における、インターフェロン・リバビリン併用療法の、治療効果予測因子としての HRQOL について検討した。

対象は、228 人の CHC 患者とし、MOS 36-Item Short-Form Health Survey を用いて HRQOL をスコア化して評価し、前向き研究を行った。

CHC 患者では、健常人と比較し有意に HRQOL が低下しており ($p = 0.037$)、肝線維化が進行している症例で HRQOL が低下していた ($p = 0.036$)。治療開始前の HRQOL スコアは、ウイルス学的著効 (sustained virological response: SVR) が得られた症例で有意に低値であり ($p = 0.031$)、精神的側面の QOL サマリースコアが有意に低下していた。治療効果予測に関する多変量解析では、治療前 HRQOL スコアが 400 点以下であることが、SVR 予測因子として有意であった (オッズ比 = 2.4, $p = 0.013$)。

HRQOL は、CHC に対するインターフェロン・リバビリン併用療法の有用な治療効果予測因子であることが示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は、C型慢性肝炎(CHC) 患者におけるインターフェロン・リバビリン併用療法における、健康関連 QOL(health-related quality of life: HRQOL)について検討し、HRQOL が治療効果予測因子となりうるかどうかを研究したものである。対象は 228 名の CHC 患者とし、MOS36-Item Short-Form Health Survey を用いて HRQOL をスコア化して評価し、前向き研究を実施している。その結果、CHC 患者では、健常人と比較して有意に HRQOL が低下していること、肝線維化が進行している症例で HRQOL が低下していることを明らかにした。さらに治療開始前の HRQOL スコアは、ウイルス学的著効(sustained virological response: SVR)が得られた症例で有意に低値で、なかでも精神的側面の QOL サマリースコアが有意に低下していた。さらに治療効果予測に関する多変量解析では、治療前 HRQOL スコアが 400 点以下であることが、SVR 予測因子として有意であったとしている。これらの成績は、C 型慢性肝炎に対するインターフェロン・リバビリン併用療法の治療効果予測因子について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。